青森田中学園報

こぶしの花

青森中央短期大学
開学50周年記念号

Aomori Chuo Junior College
50th Anniversary

青森中央短期大学が開学した1970年竣工の1号館

Aomori Chuo Junior College 50th Anniversary

ごあいさつ

地域に必要とされる教育機関として

2020年、青森中央短期大学は開学50周年を迎えました。

コロナ禍の中、関係各位と集い、ともに祝うことはできませんでしたが、2020年～2021年と2年にわたって記念事業を実施いたしました。50周年記念号でこれらの事業をご紹介することで、青森中央短期大学の50年を振り返っていただきたいと思います。

1970年、青森中央短期大学は地域に必要とされる人材を育成することを目的として開学しました。栄養士、幼稚園教諭・保育士を中心資格として、社会の変化に合わせて、経営情報学科、看護学科、専攻科福祉専攻を設置し、その時代に必要とされる人材の育成に努めてまいりました。卒業生数は、2021年には9,192名にのぼり、それぞれの分野で要職に就いて活躍しています。後輩の学外実習にあたっては、あたたかい指導を頂戴しているところです。

また、食育、環境教育、地域での介護活動など教職員の研究成果を広く地域に公開し、地域貢献も積み重ねてきました。

今後も地域になくてはならない教育機関として、研鑽を積み、貢献を続けてまいります。変わらぬご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

青森中央短期大学
学長　久保　薫

「実学志向」を追求し地域に貢献できる人材育成をめざして

この度、青森中央短期大学が開学50周年を迎えることができましたのも、偏に、これまで様々な立場で支えていただいた学園関係者の皆様や、日頃から本学に対しまして、多大なご理解・ご協力を賜りました地域の方々のご尽力の賜物であると、心から感謝申し上げます。

本学の発祥は1946年、廃墟と化した青森の地に、青森珠算簿記学院（現、青森中央経理専門学校）、及び、青森裁縫学院（現、青森中央文化専門学校）の設立に端を発し、この両校を礎にして、1970年に青森中央女子短期大学家政学科（現、食物栄養学科）がここ青森市横内の地に産声をあげました。爾来、青森中央短期大学と名称を変更し、幼児教育学科（現、幼児保育学科）、経営情報学科、看護学科、専攻科福祉専攻を次々と設置しました。

1998年には、経営情報学科を改組転換し、青森中央学院大学経営法学部が開学し、続いて青森中央学院大学大学院地域マネジメント研究科、地域マネジメント研究所が、2014年には青森中央短期大学看護学科を青森中央学院大学看護学部に昇格させ、別科助産専攻を加えて、現在に至っております。また、初等教育機関として、青森中央短期大学附属第一・第二・第三幼稚園をも設置し、青森地域において確固たる教育実績を築き上げてきました。

今後も青森中央短期大学を中核として、本学園がこれまで一貫して追求してきた「実学志向」をベースに、地域産業の振興や地域の保健医療福祉の充実に貢献できる有為な人材を養成して参ります。加えて建学の精神「愛あれ、知恵あれ、真実（まこと）あれ」に裏打ちされた、豊かな人間性・幅広い教養・高潔なる品性を基礎に、高い専門能力と技能を身につけ、主体的に生きる人間の育成という教育理念を具現化し、教育実践に活かし続けて参りたいと存じますので、皆様の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

学校法人青森田中学園
理事長　石田　憲久

お祝いの言葉

青森中央短期大学開学50周年に際し、父母及び特別関係者をもって構成されています青森中央短期大学後援会を代表して、心よりお祝い申し上げます。

50年前の創立以来、地域に根ざした確かな教育・研究活動をされており、子弟を安心して入学させることができ、また、身につけた資格、教養を活かして多くの卒業生が社会で活躍しているのを様々な機会で目にしております。

後援会といたしましてもこれからも引き続き教育活動、及び、学生の諸活動を支援して参ります。

今後もますますのご発展を祈念いたしております。

青森中央短期大学
後援会会長　遠藤　一史

青森中央短期大学開学50周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

開学当時は八甲田連峰を望む自然豊かな風景を背に、ラ・ペーの像と1号館だけのキャンパスでしたが、現在は図書館・運動施設等充実した環境と共に、春一番に咲くこぶしの花や桜の木々、めだか・虫など生命の源「ビオトープ」がキャンパスを彩っています。そして、50年の歩みと共に巣立った沢山の卒業生の皆さんは、建学の精神「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」を心の基盤とし、専門職として、家庭人として、人と人とを繋ぎ、地域や様々な場で活躍されているお話を伺うと、青森中央短期大学同窓会としても嬉しく思っております。

同窓会では、生涯学習の機会の提供・人材バンク・ネットワーク作りの支援等、色々な事業を行っております。理事長先生、学長先生、教職員の皆様のご支援のもと、卒業生の皆様と共に母校の支援を進めて参る所存です。卒業生一人ひとりの力が、青森中央短期大学の明日への大きな力になると信じ、未来へ繋いでいきたいと思っております。

青森中央短期大学
同窓会会長　工藤　文子

青森中央短期大学開学50周年、誠におめでとうございます。1970年に青森中央女子短期大学として開学されて以来、栄養管理や幼児教育の専門家を中心に地域の人材を多数育成してこられたことは、大きな地域貢献の成果です。また、この間には経営情報学科と看護学科も開設され、それらは現在の青森中央学院大学経営法学部と看護学部それぞれの母体となりました。青森中央短期大学の取組を基盤に、今日まで共に発展を遂げてこられたことを幸いに思っております。

高等教育のあるべき姿の一つは多様性であり、そのためにも、今後も共に歩みを続け、さらなる発展を目指していくことを願っています。引き続き、この地域の高等教育機関として、確固たる足跡を残していかれますようご期待申し上げ、お祝いの言葉といたします。

青森中央学院大学
学長　佐藤　敬

記念事業

青森中央短期大学開学50周年記念式典

● 開催日：2020年9月25日　● 会　場：本学講義室921、713

2020年9月25日、開学50周年記念式典が行われました。

式典では青森中央短期大学50年の歩みを振り返るとともに、建学の精神を根幹とし、「情熱あふれるプロフェッショナルを輩出し、ともに地域と生きる大学」という次の10年を見据えた短期大学の決意表明として、将来ビジョンロゴマークとマスコットキャラクター「ちゅっぴぃ」が発表されました。

【記念上映会】日仏合作ドキュメンタリー『千年の一滴 だし しょうゆ』

● 開催日：2020年9月25日
● 会　場：本学講義室921、713

記念式典の後、「日仏合作ドキュメンタリー『千年の一滴 だし しょうゆ』」が記念上映されました。このドキュメンタリーは、2013年12月に放送したNHKスペシャル「和食」をベースに海外スタッフと共に作り上げた国際版で、日本人と自然との関係を、食を切り口に見つめるという内容です。

第1章「だし：大自然のエッセンス」では雄大な大自然を凝縮した「だし」について、第2章「しょうゆ：ミクロの世界との対話」では、職人たちの発酵の知恵と技について取り上げています。日本列島が生んだ和食文化、日本文化の奥深さや素晴らしさを再発見する機会となりました。

【記念講座】ビオトープ公開講座『自然を活用した保育実践の効果』

● 開催日：2020年11月12日
● 会　場：本学講義室921、オンデマンド

講　演

自然環境を取り入れた保育実践と教員のかかわり
～幼児期でのワクワク・ドキドキと園児の成長～

● 講　師：川野圭子氏
（白鳳短期大学総合人間学科 こども教育専攻 教授／富田林市立錦部幼稚園 前園長）

パネルディスカッション

テーマ「ビオトープ活動を通じた幼児教育のポイント」

● パネラー：川野圭子氏
大沢陽子氏（青森中央短期大学幼児保育学科 学科長）
坪谷輝子氏（青森中央短期大学附属第一幼稚園 園長）

web公開講座として開催され、川野圭子氏による「自然環境を取り入れた保育の実践例」、「様々な体験からの園児の育ちと教員の働きかけ」、「大学との交流」についての講演が行われました。また、パネルディスカッションでは、青森中央短期大学のビオトープ・附属幼稚園との関わりを紹介した後、幼児教育とビオトープの活動に対して熱心な意見交換が行われました。

記念イベント

サスティナブルな地球環境 ～食用コオロギの可能性～

- 開催日：2021年7月18日
- 会　場：本学講義室921、オンライン
- 講　師：渡邉崇人氏
  （徳島大学バイオイノベーション研究所助教／株式会社グリラス代表取締役）

この記念講演は、会場参加者とオンライン参加者のハイブリット型で開催されました。

講師の渡邉氏には、コオロギは畜産物にくらべて効率よく生産でき、食品残渣の活用や生産に係る二酸化炭素の削減などサスティナブル地球環境の課題解決に役立つということ、応用研究として食用コオロギの生産に取り組んだ経緯についてご講演いただきました。また、無印良品をはじめとした商品化の経緯や、自社ブランドの起ち上げによるお菓子の生産等、大変興味深いお話をしていただきました。地域の皆さんと一緒に地球の未来を考える大変有意義な記念講演でした。

究極の地産地消 ～全国からお客を呼ぶには～

- 開催日：2021年9月3日
- 会　場：本学講義室921、オンライン
- 講　師：笹森通彰氏
  （オステリア エノテカ ダ・サスィーノ　オーナーシェフ）

2021年9月3日、弘前市にある笹森氏のお店から、オンラインでの講演開催となりました。笹森氏は、料理だけではなく、自ら野菜や生ハム、チーズ、ワインまでを素材から作り出す姿勢が全国から注目されています。数々の雑誌やテレビ「情熱大陸」等のメディアにも取り上げられている他、料理やワイン、チーズ等のコンクールで数多くの賞を受賞されています。地域に根ざしながら全国から注目を浴びている、日本のトップランナーの志と行動力に触れ、自分の可能性を信じたくなるような素敵な時間を共有することができました。

絵本作家の眼（まなこ）「もったいない」を再考しよう 「もったいないばあさん」作者 真珠まりこさんによるお話と読み聞かせ

- 開催日：2021年6月20日
- 会場：本学講義室921、オンライン
- 講師：真珠まりこ氏（絵本作家）

講演は、約100名の会場参加者とオンライン参加者のハイブリット型で開催されました。

「もったいないばあさん」等の作品の読み聞かせをしていただきながら、それぞれの絵本についての思いや作品にまつわるお話をしていただきました。とくに、環境や貧困に対して先生が取り組まれている、「もったいないばあさんのワールドレポート展」や、保育者を目指す学生へのエールなど話していただきました。

「もったいない」この言葉の意味を伝えていくことができる絵本の力と可能性にも気付かされた貴重な時間を共有できました。

卒業生との交流講座

卒業生との交流講座　～「好き」を仕事にする方法～

● 開催日：2021年9月13日　● 会　場：アクティブラーニング室231、232

2021年9月13日、食物栄養学科の「フードスペシャリスト」課程の履修者を中心に、卒業生の専門職として現場で働く姿を通して将来に対する具体的なイメージを持つことを目的として実施されました。

Galetteria Da Sasino店長の対馬さんからは、リゾートレストランでの飲食部門での経験や、現在のお店での店長としての仕事、ラテアート世界選手権への参加体験等を、橋本ベーカリー店主の橋本さんからは、大手のパン屋チェーンでの仕事、ドイツでのワーキングホリデーでの体験、国内の名店での修業の経験、開業してから短大時代で学んだ事が生きてきたことなど様々なお話をしていただきました。講師お二人の体験談を聞くことができ、学生にとって学びの多い有意義な時間となりました。

卒業生講師より

飲食店において必要な、仕事・商品に対しての考え方、現場で実際にどのようにメニューを作っているか、生の声を伝えることができ非常に良い機会でした。また、今現在夢や就きたいと考える職が無くても、働きながらでも必ず見つけることができます。

今後飲食店で働きたいと思う若い世代が増えていくことを楽しみにしております。

Galetteria Da Sasino 店長
（第35期生）
対馬 大輔さん

この度は、開学50周年の講師として選んで頂きありがとうございました。在学中の私と同じように進路に悩む学生やまだ社会を知らない学生に、仕事に対しての思いや何のために学び働くのか、少しでも私なりの考えが伝わっていたら嬉しいです。また、対馬君との（コーヒーとパンの）コラボが出来たことも私自身とても貴重な体験をさせて頂きました。

橋本ベーカリー 店主
（第35期生）
橋本 佳賢さん

保育者と保育者のたまごたちENENEN（園縁円）

● 開催日：2021年7月3日　● 会　場：アクティブラーニング室231、232

2021年7月3日、幼児保育学科と専攻科福祉専攻の学生9名、保育者として働く卒業生3名による交流会が行われました。

「仕事の内容について」、「人間関係・コミュニケーション」、「仕事と家庭のバランス・ライフワークバランス」のテーマのもと、3つのグループにわかれて座談会を実施、後半はグループでとりあげた内容についての意見交換が行われました。先輩たちの現場で働く姿や言葉によって、学生たちの将来についての不安は軽減され、期待にかわっていく姿がありました。

青森中央短期大学マスコットキャラクター

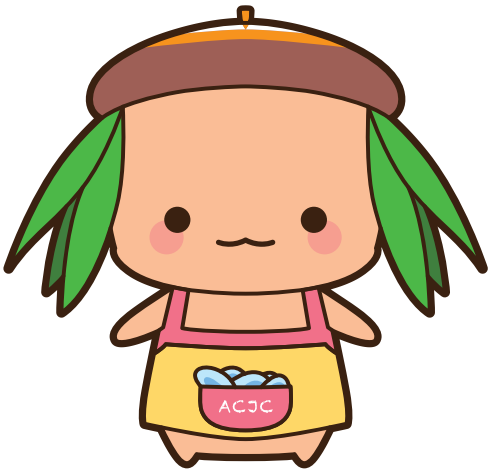
ちゅっぴぃ

Aomori Chuo Junior College 50th Anniversary

「ちゅっぴぃ」のちゅは、青森中央短期大学の「CHU」から、「ぴぃ」はHappiness、Peace、作品のPieceから名付けられました。ビオトープの森に住んでいる優しい妖精で、ポケットに不思議な種を持っているということをコンセプトに在学生を対象にデザインを募集し、幼児保育学科49期生・太田富弓さんのデザインが最優秀賞作品として選定されました。

「ちゅっぴぃ」と出会い、不思議な種をもらった人は、種を育て、それぞれの素敵な花を咲かせていきます。花からはまた、新しい種が生まれ、それを次の誰かへと送っていくことで、ココは（青森、居場所、心の中）、幸せに（豊かな自然、優しさ、暖かさ、人、美味しいもの、元気な子どもたち、充実した教育）包まれていきます。

青森中央短期大学の建学の精神・将来ビジョンを体現する存在として誕生したマスコットキャラクター「ちゅっぴぃ」をよろしくお願いします。



ちゅっぴぃのCD

CHU-TAN　食育ソング Vol.2
CD『だいずのうた』

『だいずのうた』は、「子どもたちに美味しい幸せを」をキャッチフレーズに、土の匂いや感触、鳥の声、お日様の温もり、季節の移り変わりなどが感じられる歌詞や効果音から一粒の大豆が私たちの身体に届くまでのストーリーを五感で感じられるように作られた食育ソングです。みそ作りの工程や発酵の不思議さを表現した「みそ作りの唄」とちゅっぴぃのテーマソング「種をあげる」も収録されています。良い種を育てみんなで分け合うように、食を通して幸せな環境をつくっていきたいですね。

ちゅっぴぃのクッキー缶

開学50周年のオリジナルグッズとして、「ちゅっぴぃ・まあちくん」特製缶入りオリジナルクッキーを作りました。キャンパス内で収穫できる樹の実を使用してお菓子作り・販売、お菓子教室を行っている学生プロジェクト「食べよう青森♪樹の実プロジェクト」と、洋菓子店「赤い林檎」さんとのコラボレーションで、クッキーを作りました。

特製缶にはマスコットキャラクターの「ちゅっぴぃ」と、青森中央学院大学のマスコットキャラクター「まあちくん」が描かれ、ちゅっぴぃ・まあちくんの顔の型抜きクッキーや、キャンパス内で収穫できるカシス、クルミ、桜を使用したクッキーが入っています。

また、「食べよう青森♪樹の実プロジェクト」では、親子で楽しく参加できる「お菓子教室～ちゅっぴぃのクッキー缶作り～」を企画・開催しました。

トピックス

将来ビジョンロゴマーク制定

「愛あれ、知恵あれ、真実（まこと）あれ」の建学の精神のもと、地域に必要とされる専門職を輩出している青森中央短期大学では、これから先の10年間を展望した将来ビジョン「情熱あふれるプロフェッショナルを輩出し、ともに地域といきる大学」を掲げています。

この将来ビジョンは、建学の精神を具現化した、「情熱（Passion）と能力（Competency）をもって、社会の幸せの達成（Well-being）をめざす」人材、すなわち、青森を愛し、学び得た専門性を地域のために活かす人材の育成を目指すことを表現しています。

ロゴマークは一般公募で採択され、キーワードの頭文字「PCW」をベースに、日々成長する本学学生の姿をイメージしてデザインされました。また、「オレンジ」は情熱、「グリーン」は青森の雄大な自然、「ブルー」は成長・飛躍、「レッド」は将来ビジョンを実現する強い決意を表しています。

情熱あふれるプロフェッショナルを輩出し
ともに地域といきる大学

海外との連携

グローバル化・国際交流事業の一環として2018年10月、日本の幼児教育に関心を持つベトナム幼児教育視察団の一行10名が本学を訪問されました。最初に日本の幼児教育制度や幼稚園教諭養成、学科カリキュラムについての説明を行い、大学の授業見学や附属幼稚園での見学・保育体験に参加してもらいました。

園においては、給食時のお当番や食事の際の作法、順番を守って行動できる子ども達、子どもの主体性を尊重した保育活動の展開に注目が集まりました。視察団一行、大学関係者、附属幼稚園園長を交えて、ベトナムと日本の幼児教育の特徴や保育・教育観についての熱の入った意見交換がされ、これを機に連携を継続させたいという意思が高まりました。

コロナ禍の現在は、オンラインを活用したプログラムの具現化に向けて準備が進められており楽しみです。

10周年を迎えた産学官協同の弁当作り

2012年から始まった、イトーヨーカドー（産）、青森中央短期大学食物栄養学科（学）、青森県（官）の協同による「学生が考案したレシピ」の弁当作りが、今年で10周年を迎えました。1回限りの予定でしたが、思いのほか好評で10年続いています。

今年は、これまで商品となったレシピに、さらにアレンジを加えたものを中心にした「祝！産学官コラボ　10周年選抜よくばり弁当」を作成。9品のうち7品はアレンジを加えた過去のレシピ、2品は新レシピとなりました。

コロナ禍により表敬訪問や販売イベントが中止となる中、報道陣に向けての広報活動、売り場でのお手伝いなど学生の頑張りがあり、県内4店舗で販売されて連日売り切れるという10周年に相応しい成果となりました。

ビオトープの取り組み

ビオトープサークルは、2016年にビオトープが開園して以降、法人事務局、附属幼稚園の支援・協力のもと活動を続けてきました。本サークルでは、サークル所属学生と附属第一幼稚園との合同保育を活動の中心としています。園児の「センス・オブ・ワンダー」をくすぐる活動を学生とともに考え、実践し、幼児教育にとっての自然環境の意味を理解した保育者の養成を行っています。

また、地域の親子を対象に、7月に「セミの羽化鑑賞会」、10月に「親子講座：ビオトープで遊ぼう」を開催し、地域の皆さんにも自然との関わりを学ぶ場として活用されています。今年度は、「全国学校・園庭ビオトープコンクール2021」で『日本生態系協会賞』を受賞いたしました。

みんなの食堂

2019年度青森県「みんなの食堂」運営モデル実証業務に採択され、2019年9月から全12回にわたり、地域の方々と世代間交流と郷土料理の伝承を目的に実施しました。

12月15日には「地域の食材でクリスマスパーティー」と題して、専攻科福祉専攻の学生7名が、食物栄養学科の先生方に指導いただき、主として横内地域にお住まいの小さなお子様からご高齢の方々と、調理体験や喫食をさせていただきました。

参加者からは「日頃の育児や介護の中、気分転換になった」と喜びの声もありました。また、青森中央学院大学在学中の中国人留学生3名も参加し、「中国ではあまり地域の活動として調理体験がないから、とても楽しかった」との声。この地域活動で、小さなお子様からご高齢の方まで幅広くコミュニケーションを実践する機会をいただくことができました。

活動にご支援ご協力いただきました先生方や地域の方々に、心より御礼申し上げます。

沿革 50周年のあゆみ

1946 - 1980

1946〔昭和21年〕
- 学校法人青森田中学園創立
- 「青森珠算簿記学院（現 青森中央経理専門学校）」並びに「青森裁縫学院（現 青森中央文化専門学校）」創立

1970〔昭和45年〕
- 「青森中央女子短期大学家政学科」設置
- 校歌「愛と知恵と真実と」制定（作詞：横山武夫氏／作曲：木村繁氏）
- 1号館竣工

1号館建設着手

キャンパス周辺

第一回入学式

1971〔昭和46年〕
- 「青森中央女子短期大学附属第一幼稚園」設置

附属第一幼稚園開園

1974〔昭和49年〕
- 「青森中央短期大学」並びに「青森中央短期大学附属第一幼稚園」に改称
- 「家政学科」を被服専攻、食物栄養専攻に専攻分離
- 「青森中央短期大学幼児教育学科」を設置

幼児教育学科開設・第一回入学式

1976〔昭和51年〕
- 自適館（学生寮）竣工

自適館

1978〔昭和53年〕
- 「家政学科被服専攻」を「家政専攻」に変更
- 「家政学科」に図書館司書・司書教諭の課程を設置

1980〔昭和55年〕
- 「青森中央短期大学附属第二幼稚園」設置

附属第二幼稚園開園

1981 - 1998

1981〔昭和56年〕
- 「青森中央短期大学附属第三幼稚園」設置
- 学園報「こぶしの花」創刊

附属第三幼稚園開園

1982〔昭和57年〕
- 「幼児教育学科」に司書課程を設置

1983〔昭和58年〕
- 「家政学科・幼児教育学科」に社会福祉主事課程を設置

1984〔昭和59年〕
- 4号館「こぶし会館」（学生寮）竣工
  東北初の個室学生寮

4号館「こぶし会館」

1986〔昭和61年〕
- 3号館「瑞力館」竣工

3号館「瑞力館」

1987〔昭和62年〕
- 5号館「経営情報学科棟」竣工

1988〔昭和63年〕
- 「青森中央短期大学経営情報学科」設置
- 「家政学科食物栄養専攻」を「青森中央短期大学食物栄養学科」に変更

経営情報学科第一回入学式

1989〔平成元年〕
- 「青森中央短期大学専攻科福祉専攻」設置
- 全学科に秘書士課程を設置

開学20周年記念式典

専攻科開設

1998〔平成10年〕
- 「経営情報学科」を改組転換し、「青森中央学院大学」開学、「経営法学部」開設
- 7号館（図書館）・8号館（国際交流会館）・本部棟・プール棟竣工
- 図書館情報センター・国際交流センター開設

1999 - 2010

1999〔平成11年〕
- 「食物栄養学科」にフードスペシャリスト課程を設置

2000〔平成12年〕
- 青森中央短期大学開学30周年
- 「幼児教育学科」にレクリエーション・インストラクター課程を設置
- 「専攻科福祉専攻」に生きがい情報士課程を設置

開学30周年記念
「北まほろば中央の碑」除幕式

2002〔平成14年〕
- 学術交流会館竣工
- 野球場・陸上競技場・サッカー場完成

学術交流会館

2003〔平成15年〕
- 「幼児教育学科」を「青森中央短期大学幼児保育学科」に変更

2004〔平成16年〕
- 「青森中央学院大学大学院地域マネジメント研究科（修士課程）」開設
- 「青森中央学院大学地域マネジメント研究所」開設

2005〔平成17年〕
- 「食物栄養学科」に栄養教諭課程、フードサイエンティスト課程を設置

2006〔平成18年〕
- 「青森中央短期大学看護学科」設置
- 7号館竣工、図書館増設、キャリア支援センター開設

2007〔平成19年〕
- 学園創立者・理事長 久保 豊先生 逝去
- 法人本部長 石田憲久先生 新理事長に就任

2008〔平成20年〕
- （財）短期大学基準協会より機関別評価結果として適格認定
- 学習支援センター開設

2010〔平成22年〕
- 青森中央短期大学開学40周年

開学40周年記念式典

2011 -

2011〔平成23年〕
- 青森中央学院大学サテライトキャンパス「FRIENDLY WINDOW」を開設

2012〔平成24年〕
- 青森中央短期大学附属第一幼稚園・附属第三幼稚園が認定こども園に認定される

2013〔平成25年〕
- 青森中央短期大学附属第二幼稚園が認定こども園に認定される

2014〔平成26年〕
- 青森中央学院大学看護学部設置「看護学科」改組転換
- 地域連携センター開設
- 7号館増築、2号館竣工

2号館

2015〔平成27年〕
- 認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園新園舎落成

2016〔平成28年〕
- （財）短期大学基準協会より機関別評価結果として適格認定
- 「青森田中学園」創立70周年
- ビオトープ設置

ビオトープ

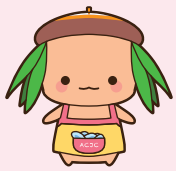
2017〔平成29年〕
- 「全国学校・園庭ビオトープコンクール」において「ドイツ大使館賞」受賞
- 第2体育館、屋内練習場竣工、人工芝サッカー場完成

第二体育館と屋内練習場

人工芝サッカー場

2018〔平成30年〕
- 「青森中央学院大学別科助産専攻」設置
- 青森中央学院大学開学20周年
- 学園展示コーナー「+C」設置

2020〔令和2年〕
- 青森中央短期大学開学50周年
- マスコットキャラクター「ちゅっぴい」誕生
- 将来ビジョンロゴマーク制定



青森田中学園報「こぶしの花」
青森中央短期大学開学50周年記念号

発行日：2022. 1. 31
発　行：学校法人 青森田中学園
〒030－0132 青森市横内字神田12番地
ＴＥＬ：017－728－0121
ＦＡＸ：017－738－8333
https://www.chutan.ac.jp